

肘笠雨のやうに悲しみ除けながら写真の父母

見上ぐるはらから

秋山智恵子

三月の芽吹き気魄みちる森しづかに待たう

黄連雀緋連雀

福崎 享子

夫あらば水面のさざ波山椒はるのときめき語  
らふものを  
鎌倉でおにぎり横取り憎き鳶 今朝は海老名  
に涼しく鳴けり

山口加津子

えは春日井建のような柔らかな青年性に眩  
目した。宇和島在住の松本秀一は、川魚の  
オイカワに見る美の変身、婚姻色の鮮紅の  
不思議を詠み、水口奈津子は霧を主題にし  
て地方色豊かな陰影に富んだ歌を詠み続け  
ている。田中薫の肉親愛、岸並千珠子の発  
想の特殊性、山脇恵乙子らに注目した。

渡辺 和子

菊の紋章いずこに沈む残骸となりても「武  
蔵」父の誇りの  
七月号・前川多美江  
春のダム愁いと決意を漂わせじつと放水待ち  
かねている  
植山 俊宏

今年二〇一五年六月号は「心の花一四〇〇

号記念特集号」であり、今年には歴史的見地  
からしても、第二次世界大戦敗戦から七十  
年。新憲法のもと戦争のない安全な環境を  
もつ平和国家として歩んできた七十年目の  
優れた作品に接することが出来た。

様々な感慨の横切る胸裡を、年齢相応に、  
かつての原爆・敗戦に関するもの、戦争とい  
う理不尽な行為に対する端的な反応など、  
多数の感情が深々と、率直に詠い出された  
年でもある。豊かな抒情に裏打ちされた日  
常詠や、さやかなアニマの歌に魅かれた。

こししばらく欠詠の続く石川不二子の初  
期に触れて懐かしく、その人の人間性と歩  
みに光を当て、作品化して着実な進歩を見  
せている福原美江。高山邦男は徒の感傷的  
な眩きではない上質な抒情の発露ともいっ  
べき若々しさが永遠の青年を思わせる。例

・紅ふかく染まり香れる甕の中 土用干ま  
で待つ豊後梅 長谷川静枝  
・曼陀羅の極彩色で身を飾る波動のなかの  
雄のおひかは 松本 秀一  
・青空の遠心力のブーメラン朱泥の屋根を  
かすめる燕 メドウビエル由美子  
・残された「時」散歩する老犬の歩み止ま  
らざりド震える 佐佐木定綱

・桃蘿蔔 荀畑の広がる父祖の地甲斐のみ  
どり目に沁む 後藤 秀彦

・隠者めく車谷長吉逝きにけりやさしき眼  
なりメガネをとれば 足立 勝歳  
・久々に犬養孝の声を聴く万葉集をうたう  
声聴く 有野裕美子  
・娘の余命告ぐる主治医と向き合えば見え  
いて霞む春の白神山 北林 愛子  
・焼夷弾の降るなか逃げし少女なりき疎開  
地甲府の空襲の夜 佐久間幸子  
・濡れそぼつ茄子の花より紫の雨の雫の滴  
りにけり 和田 敏典  
・多羅葉を送つてくれし友のあり子供に返  
り字を書いてみる 瀬崎 豊子

・残された「時」散歩する老犬の歩み止ま  
らざりド震える 佐佐木定綱